



	特徴	詳細
インプット	マルチスペクトル画像	☑ マルチスペクトルセンサーからの直下型画像をTIFFまたはJPEG形式で取り込み可能
	RGB画像	☑ 標準的なRGBセンサーからの直下型画像をJPEG形式でインポート可能
	事前に処理したマップ	☑ 他のPix4D製品で事前に処理されたオルソモザイクや植生指数マップをインポート (geoTIFFとしてインポート)
	ほ場境界	☑ ほ場境界 (1つ、もしくは複数の多角形) をGeoJSON、KML、Shapefileとしてインポートして、目的の領域に分析を集中させることができます。ほ場内のサブ境界や障害物のサポートも含まれています。
	ジオタグ付きの画像	☑ GPSタグ付きの画像を、位置情報注釈としてレイヤーに直接インポート (JPEGまたはTIFFでインポート)
	注釈	☑ 注釈 (点、線、ポリゴン) をレイヤーに直接インポート (GeoJSON、KML、Shapefileでインポート)
	衛星データのインポート	☑ Sentinel-2衛星データで、ほ場のマッピングを強化。
	ツールと機能	使いやすいインターフェース
軽量かつパワフル		☑ 処理にインターネット接続やクラウドを必要とせず、ハイスペックでなくとも現場のノートパソコンで作業できる手軽さ
ダッシュボードによるプロジェクト管理		☑ 主要作物情報を含めプロジェクト (農場、クライアント、組織) を管理
正確な処理		☑ 高解像度数値表層モデル (DSM)、ジオロケーションの改善、標高変化の激しいデータセットに対応した「正確な処理」モード
高速処理		☑ 空撮画像から高解像度の2Dマップを数分で生成し、現場のオフライン環境でも処理が可能
GPUによる高速処理の強化		☑ 適切なGPUを利用することで、標準的なCPUよりも処理速度を大幅に向上。
リグ相對補正		☑ 対応マルチスペクトルカメラ用のリグ相對情報によるバンドアライメント向上再計算オプション
ラジオメトリック補正		☑ ほ場の境界線を作成またはインポートして、レイヤーを特定の関心のあるエリアにトリミング
フィールド境界エディター		☑ ほ場の境界線を作成またはインポートして、レイヤーを特定の関心のあるエリアにトリミング
インデックス生成ツール		☑ LCI、NDRE、NDVI、TGI、VARIなどの定義済み指標の自動生成
指数計算機		☑ 保存して再利用することが可能な指標関数を入力してカスタム指標を作成
ゾネーションツール		☑ 2〜7クラスの植生指数マップの情報をもとに、カスタムゾーンを作成
処方ツール		☑ 精密農業アプリケーションのための適用率マップを作成
比較ツール		☑ 異なるマップを分割画面またはダブル画面で比較
注釈ツール		☑ 関心のあるエリアにタイトルや説明、ジオロケーション付画像を注釈に添付することが可能
計測ツール		☑ 計測ツールで素早く距離および面積を測り、現場で分析
統計情報		☑ エリアサイズ、平均高度または指標値、標準偏差などを含むレイヤーと注釈の統計
高度なレイヤーの可視化		☑ 標準化を含めたヒストグラム値の範囲が調整でき、関心のあるデータ値表示のコントロールが可能
PDFレポート生成		☑ PDFレポートエクスポートツールを使って全てのプロジェクト関係者とマップを共有し、円滑な連携をとる
エクスポートツール		☑ プロジェクトや個々のレイヤーを、画像サイズや形式を調整しながらコンピュータにエクスポートして利用可能
PIX4Dcloudでの共有	☑ PIX4Dfieldsのアウトプット (オルソモザイク、サーフェスモデル、インデックスレイヤー、アノテーション) をPIX4Dcloudに直接アップロードして共有する	
パンシャープン	☑ パンシャープン機能でより高画質に	
マジックツール	☑ オルソモザイクやインデックスレイヤーから雑草や損傷などの異常を素早く検出・選択するAI支援選択ツール (Shapefile、GeoJSON、KML、PDFレポートとしてエクスポート可)	

アウトプット	オルソモザイク	☒ 地図の解像度や品質を設定できるオプションを使用して、作物観察や評価のためにほ場のビジュアルマップを作成 (geoTIFFでエクスポート)。
	数値表層モデル	☒ 灌漑、排水、浸食の管理に役立つ標高データ (geoTIFFでエクスポート)
	植生指数マップ	☒ 植生が最もストレスを抱えるエリアを確認し、作物保護、作物生産ワークフローを支援するためのマップ
	ゾネーションマップ	☒ 植生指数マップをより実用的なレイヤーに変換したマップ (Shapefile、KMLまたはGeoJSONとしてエクスポート)
	処方マップ	☒ ゾネーションマップに各ゾーンの適用率の値があるもの (Shapefile、KMLまたはGeoJSONとしてエクスポート)
	フィールド境界	☒ 圃場境界を設定することで、解析対象領域を絞り込むことが可能 (GeoJSON、KML、Shapefile、MyJohnDeereへのエクスポート可)
	注釈	☒ 関心エリアに注釈を加えることで、より価値のある、実用的な情報を伝達 (GeoJSON、KMLまたはShapefileでエクスポート)
	PDFレポート	☒ ロゴや連絡先を入れてカスタマイズしたプロジェクトレポートを簡単に共有可能 (PDFでエクスポート)
	統計情報	☒ レイヤーと注釈の統計情報はスタンドアロンファイルとしてエクスポート可能 (CSVエクスポート)
	スナップショット	☒ 注釈を含ませることのできる現在のマップビューのスナップショット (JPEGまたはPNGでエクスポート)
言語	言語オプション	☒ 英語、中国語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、日本語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、ウクライナ語、ポーランド語

2 | 2

## ハードウェアの仕様

**CPU:** クアッドコアまたはヘキサコアのIntel i5 (またはそれ以上のもの)**HD:** SSD推奨される**RAM:** 8 GB RAM (またはそれ以上)**GPU:** 2GB RAMの内蔵または専用GPU (推奨: 6GB RAMのGeForce GTX GPU)**OS:** Windows 11 / macOS Catalina (10.15) (もしくはより新しいもの)